

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 4/Nov/2025/vol.851

小杉（こすぎ）-あしらい・飾り（長野県産 中国産） Small cedar branch "Kosugi"

古くは約 6000 年前（縄文前期）の福井県鳥浜貝塚遺跡から、杉をくりぬいて作った丸木舟が出土したとか。世界遺産として世界的にも知られている屋久島の縄文杉も、樹齢は約 2000～7200 年ともいわれています。杉を使ったオブジェとしては、日本の酒蔵の軒の下につるされた「杉玉」を思い浮かべる人も多いでしょう。これは元々奈良県の日本最古の大神神社（おおみわじんじや）が発祥だそうで、神様の印の杉を奉納したことから始まります。酒の神様としても知られている大神神社でしたので、次第に杉玉と酒がつながり、造り酒屋の新酒のシーズンに青い杉玉が掲げられ、秋になると茶色に変化した杉玉が「熟成した美味しい酒ができた」というサインにもなっています。今でもそのシーンを日本各地の酒蔵で見ることができます。この様に杉と日本人とのかかわりはまさに悠久の歴史の中でしっかりと繋がって育まれてきました。日本では古くからお寿司屋さんの新鮮なネタを守るように「杉の葉」が使われています。これはショーケースの中のネタを見映え良くする以上に殺菌や虫よけ効果も高いからで、近年の調査では空気中の雑菌やウイルスまで抑えるとも言われています。今回ご紹介する「小杉（こすぎ）」は見た目も可愛らしく、飾りにも、あしらいにもお使いいただけます。年末のフェスティブシーズンにおいて、お料理に添えるクリスマス飾りに仕立てても可愛いかもしれません。